

各重点項目に関するステークホルダーからの声



環境負荷の低減

リサイクル・ループ確立に向け、協力していきたい



湘南エコファクトリーPFI株式会社
(登録再生利用事業者藤沢市有機質資源再生センター※)
センター長

小形 俊文様

イトーヨーカドー11店舗の食品廃棄物を搬入しているお取引先からのご意見(→P32)。

イトーヨーカドーは、これまで焼却処分していた食品残さを、ビニール・紙などを取り除いた上で当施設へ搬入し、堆肥化することにより、従来燃焼時に発生させていたCO₂の抑制と廃棄物の資源化に積極的に取り組んでおられます。こうした姿勢は、我々社会の地球環境に、今、最も求められることであり、皆様からの共感を得られるものと確信しております。今後は、さらなる協力を賜り、この良質な有機堆肥を多くの農家さんに使っていただき、より安全・安心な野菜・果物の生産を推進し、そして多くのお客様に供給するリサイクル・ループの確立を願っています。

※ 藤沢市が民間のノウハウを活用して運営するPFI(Private Finance Initiative)事業として企画。家畜糞・剪定枝・食品残さを処理し、良質な有機堆肥をつくることを目的とした施設。



地域社会との共生

地元を元気にしてくれます



奈良県庁 くらし創造部 協働推進課
課長

森川 裕一様

2008年セブン-イレブン・ジャパンと地域活性化包括連携協定を締結した奈良県庁からのご意見(→P50)。

民間企業とこのような協定を結んだのは初めてですが、民間ならではの方法で地域活性化につながる事例が生まれており、今後も大いに期待しています。食育応援弁当第3弾である「近畿まほろば総体記念 元気に応援弁当」の開発にあたって、携わった県立磯城野高等学校フードデザイン科の学生さんが、食材のヤマトポークの生産者を訪問する機会を得て、双方大変喜んでおられました。

今後セブン-イレブンのお店には、地域に密着した『よろすや』として若い人からお年寄りまで幅広い住民が集い、地域情報を得たり地域産品が買えるコミュニティ拠点となってほしいですね。



安全・安心な商品・サービスの提供

生産者と消費者との橋渡しになってほしいです



社団法人
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
環境委員会副委員長

大石 美奈子様

消費者の立場から、セブン&アイHLDGSの「安全・安心」への取り組みに関するご意見。

イトーヨーカドーの店舗では「顔が見える食品。」など、国産品の取り扱いに力を入れていることがよくわかりました。ただ、詳細な生産履歴を知りたい人のために、肥料や農薬に関する情報を提供する準備も必要でしょうし、外国産の商品の履歴情報が少ないのも気になりました。また、販売者は「生産者の思い」を店頭で積極的にPRしてほしいと思います。商品の背景・価値を知れば、形が悪い野菜や、フェアトレード・環境配慮商品を、消費者は納得して購入するのではないのでしょうか。消費者の購買行動をも変えるような、店頭での新たな「伝え方や仕組み」に期待します。



働きがいのある職場づくり

認められると、やる気が出ます



ヨークベニマル赤塚店 鮮魚部門
チーフ

河又 富士子様

2006年社内の技術コンクール優勝者から、社内育成制度に対してのご意見(→P64)。

私は毎年10月に行われる「創業祭技術コンクール」で優勝してから、自分の調理や技術に自信が付きました。ただ周りにはまだまだ技術力の有る人が多くいますので、現状に満足することなく、さらに磨いていくことが大切だと感じています。

ヨークベニマルでは「目標設定カルテ」があることにより、次に習得すべきことが明確にわかります。上司からは、叱咤激励があり、認めてもらえれば、やる気が出てきます。認めてもらった時や次の目標を共有できると、自分の成長にもつながり、良い商品や売り場が生まれ、そして良い結果に結びつくと思います。女性でもやる気と能力があれば活躍できる職場です。